雌豚ダンジョン

スライム沼
『どんな雌豚も爆乳に変えられる』という誰もが憧れる秘宝を求め、
雌豚ダンジョンには毎日のようにたくさんのご主人様が雌豚を送り込む。
しかし、この過酷なダンジョンから帰った雌豚は、一人としていない。
何故なら、このダンジョンには、エロく厳しい試練の数々が待ち受けているからだ。
ダンジョンに入ったばかりの雌豚は、まず例外なくこのスライム沼を
通らなくてはならない。非常に足を取られやすい沼だが、この沼では
決して転んではならないのだ。

「あうぅっ！！」（やっ、やだっ・・・ふ、服が溶けて・・・っ！！）
スライム沼
ビクン
ズズズッ
クチュ
クチュ
スライム沼は、一般的なスライムとは異なり、人間の体液に非常に敏感に反応する。
そのため、股間や乳首などの体液をにじませる部分の衣服は、早々に脱がされるか
溶かされてしまう。そして、あらわになった恥部を愛撫し、体液を分泌するよう働き
かけるのだ。
もしこの沼の中で衣服を脱がされ、体内に入り込まれてしまえば、今後は敏感な部分を
際限なく弄られ続け、イカされ続けるしかない。

スライム沼
「おおっ♥　おっ♥　おぉんっ♥　おっ♥　おぉっ♥」
（やめっ♥　やめてっ♥　だめっ・・・腰が抜けて・・・っ♥　立てない・・・っ♥）
一度沼に囚われた雌豚は、スライムに入り込まれ、体内を完全に支配される。
場所により、スライム沼からは媚薬すら注がれる場合があり、休みなくイカされ続けた
雌豚は発狂してしまう。しかし、スライムはさらなる体液を求め、雌豚が死ぬまで
非情に責め続けるのだ。たとえ沼の地帯を抜けられても、体内のスライムは排出されず、
雌豚は死ぬまでイキ狂い続けることになる。

鎧が溶ける床

スライム地帯を抜けても、雌豚に安心できる場所はない。
雌豚の帰還を祈ってご主人様が着せてくれた装備も、
この床の部屋に入ると、意味を失ってしまう。

装備において最も防御力が高いのは、当然金属性のものだろう。
しかし、この部屋では、その金属の鎧すら、たやすく溶かして
しまう。生体反応のないもの、特に体を覆うものが、この部屋の
床を踏んだ瞬間溶け始めるのだ。

鎧が溶ける床
この部屋の特に特殊なところは、防具を溶かして
スライム化してしまうところだろう。
ああんっ!!
ポタ
ポタ
スライム化した防具は、
この部屋のコントロール
下に置かれたかのように、
まるで意志を持つかの
ごとく動き始める。
もちろん、このダンジョンの
トラップは快楽による攻撃
に特化しており、この床も
例外ではない。
ドロ
ドロ
ポチャ

鎧が溶ける床
「あああっ♥　ひゃああっ♥　あふあぁぁぁっ♥」
雌豚は、ご主人様が自分を想って用意してくれた防具によって辱められる。
グチャ
グチャ
雌豚を心配する気持ちが大きいほど、それによって与えられる凌辱も増すのだ。
雌豚たちは、部屋から出ることもできず、自らを守るはずだった防具によってイカされ、嬲られるづけることになるのだった。

触手沼
触手沼は、言わずもがなのトラップだ。
この沼を抜けようとした愚かな雌豚は、例外なく触手に囚われ、永遠のイキ地獄を味わわされることとなる。部屋一面の触手たちは、常に雌豚の体液に飢えており、一度捕まえた雌豚は決して解放することがないのだ。

触手沼
この触手たちは、雌豚の穴という穴を
犯し、すべての体液を絞り出そうとする。
その反面、雌豚が死なないよう、
口から肛門から栄養を流し込み、
生かしておく習性もある。
「んん～っ！！」（助けっ・・・あっ、お腹に何か・・・っ！ だっ、だめぇぇっ♥）
触手沼に囚われた雌豚は、大抵３日のうちに快楽のパターンを触手に調べつくされ、
最も効果的な弱点ばかりを責められて、イキっぱなしの状態にさせられる。

触手沼
しかも、触手たちは、
”全ての穴を”という
言葉通り、性感帯
でない穴まで支配し、
コントロールする。
呼吸まで完全に支配
された時、雌豚の生殺与奪の
全ては触手の支配下にあるのだ。
雌豚に許されるのは、
触手が望むとき、望む分だけ絶頂を与えられて、
愛液や潮を吹いて触手に体液を提供することのみとなる。
雌豚はただ触手たちの愛液タンクとしてのみ生かされることになるのだった。
グチュ
グチュ

催淫花粉植物
雌豚の中には非常に優秀な能力のあるものがいる。
しかし、それで慢心していると、
このダンジョンを
切り抜けることは
できない。
うぅ…
このダンジョンに生息する植物のほとんどが、催淫成分を含んでいる。
そして、空気中に媚薬花粉を飛ばし、獲物が来るのを待っているのだ。この花粉を吸った
雌豚は、身体に力が入らなくなり、その場に座り込んでしまう。この場所で身動きが
できなくなると、もう雌豚は花粉を吸い続けることしかできない。

催淫花粉植物
地面にしみ込んだ雌豚の体液を感じ取ると、植物たちは花粉を飛ばして、一層雌豚の身体の感度を上げる。
フーッ
フーッ
こうなると、雌豚は身体が思うように動かず、オナニーすらできない状態にされる。
雌豚は、ただ愛液を垂れ流し、空イキを繰り返して、植物たちの栄養を供給するのだ。
プル
プル
ヒクヒク
プル
トロォ…
(あ…あぁ…っ♥ イキたい…っ♥ もっ、もう我慢できないぃっ♥
誰か触ってぇっ♥ 弄って…めちゃくちゃにしてぇっ♥)

催淫花粉植物
当然、植物たちに直接的な刺激を与える力はないので、雌豚は長くもどかしい時間を感じることになる。
しかし、数時間花粉を吸い続けていると、雌豚は空気の流れですら刺激に感じるように敏感になる。
「んぉっ♥　おおぉっ♥ やめっ、とめてっ♥ おぉおんっ♥」
（イッちゃうっ♥ イッちゃうっ♥ 止まんないっ♥ イッちゃうっ♥ イクぅぅぅ～っ♥）
こうなると、雌豚は何の刺激を与えられなくても勝手にイクようになり、また母乳も強制的に分泌させられ、大量の体液を植物に提供するようになる。雌豚が死ぬまでこの強制絶頂は終わらず、雌豚は地面に転がって悶えイキ狂わされるのだった。

雌豚ダンジョンでは、他にも注意すべきことがたくさんある。

石化の呪い

石化の呪いは、あらゆる場合に受けることがある。特定の床を踏んだ場合、呪いの泉に触れた場合、敵モンスターに石化の呪文を唱えられた場合など、かかる原因は様々だ。しかし、共通しているのは、解除の方法がない、という事だ。
しかし、この雌豚ダンジョンの石化は特殊で、石化した場合でも、雌豚の意志は残る。そして、身体の一部は石化されないのだ。

石化の呪い

雌豚の胸とま○こには、石化が効かない。なので、石化した場合でも、その部分だけは生身の状態で残る。

「あ‥あ‥‥っ！」（うご‥かな‥‥っ！！　いや‥‥っ！！）

しかも、雌豚の意思も残るので、身体の恥部に受けた快楽は、石化した間でも避けることができないのだ。

この淫らなオブジェは、特定のモンスターには特に好まれ、収集されている。石化した雌豚のほとんどは、そのモンスターのコレクションとなり、愛玩され、ときには利用されている。

コレクションの利用方法はモンスターによって異なるが、
主に性欲処理に利用される。
直接犯される場合もあれば、
石化した時のポーズに
よっては、素股や
アブノーマルなプレイ
もあり得る。

雌豚の愛液はモンスターの栄養分となることもあり、中には愛液や母乳を摂取して糧にする者もいる。雌豚は、石化して死ぬことも許されず、与えられた刺激に従順に反応することしかできない。
モンスターの中には、観賞用の楽しみのために、雌豚の股間にスライムを注入したり、催淫植物と共に展示したりする事もある。
多様な楽しみ方ができる事も、モンスターたちがこの石化オブジェを好む理由だろう。

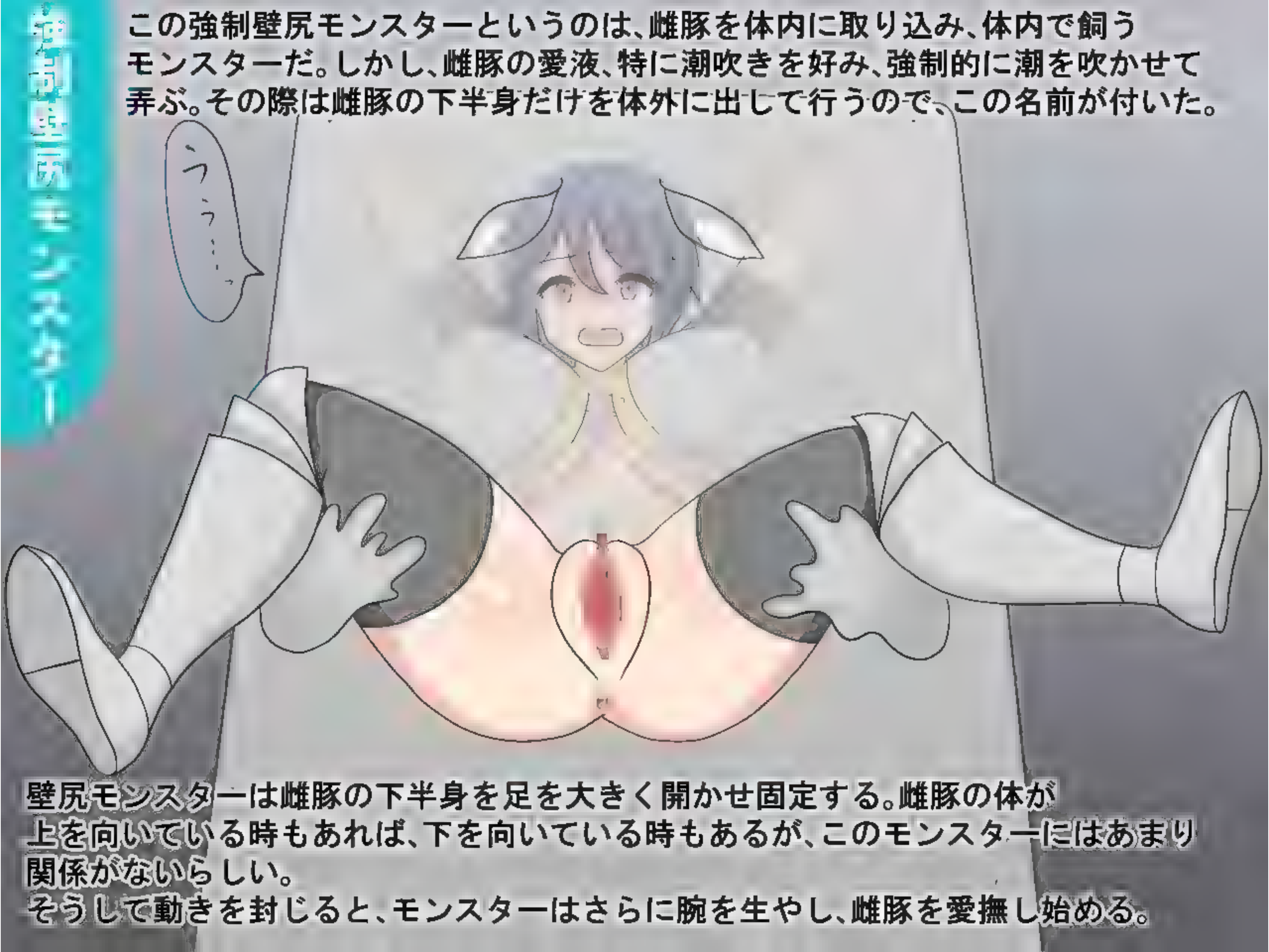
オーク、ゴブリン

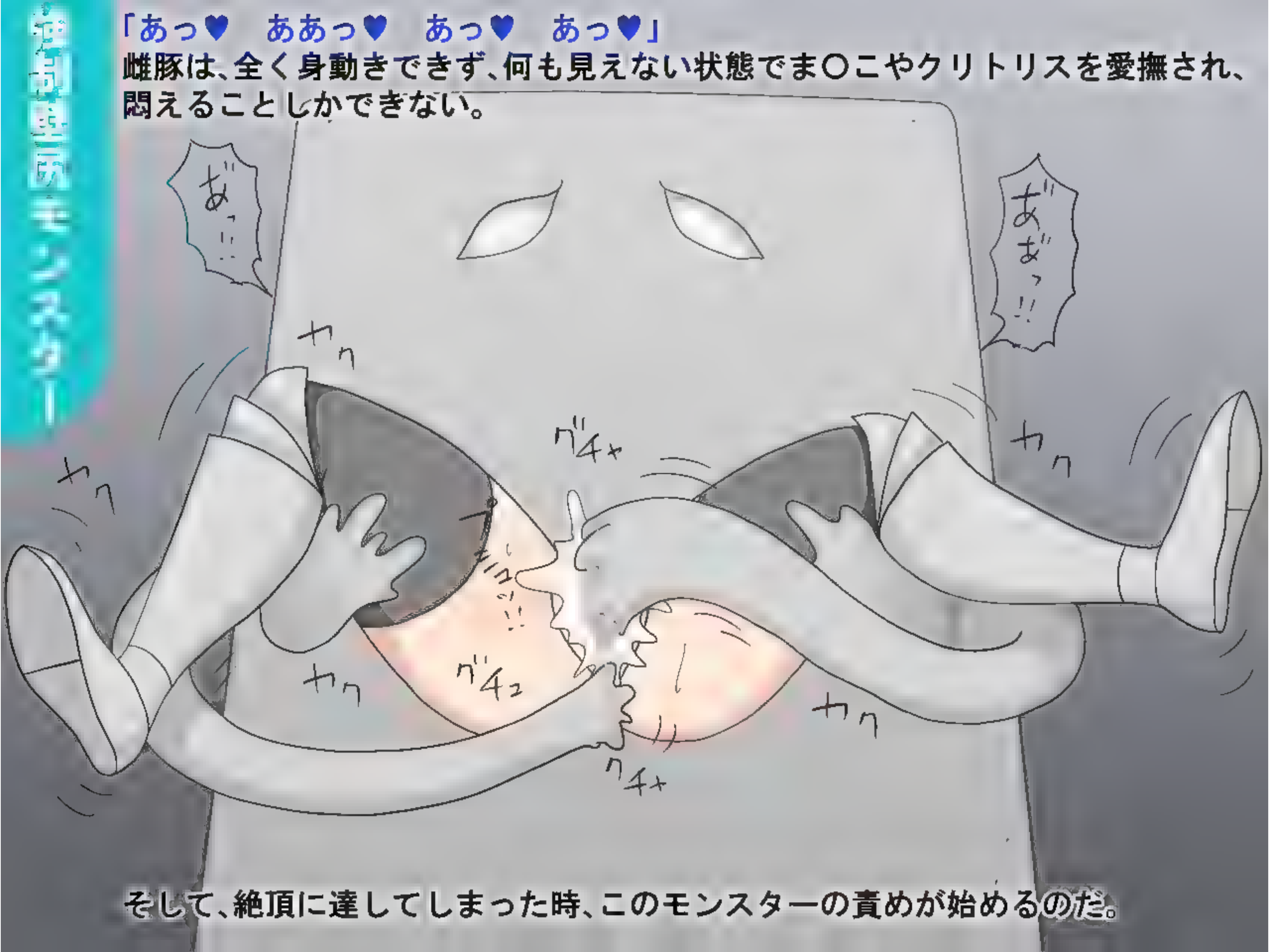
このダンジョンでは、奇抜なエロトラップに目を奪われがちだが、
当然ストレートに雌豚を襲う危機もある。

このダンジョンにも、オーク、ゴブリンは生息しており、性欲処理のために雌豚を狙っている。
腕力では決して勝てない雌豚たちは、一度捕まると、死ぬまで性欲処理奴隷として弄ばれ、嬲られることになる。

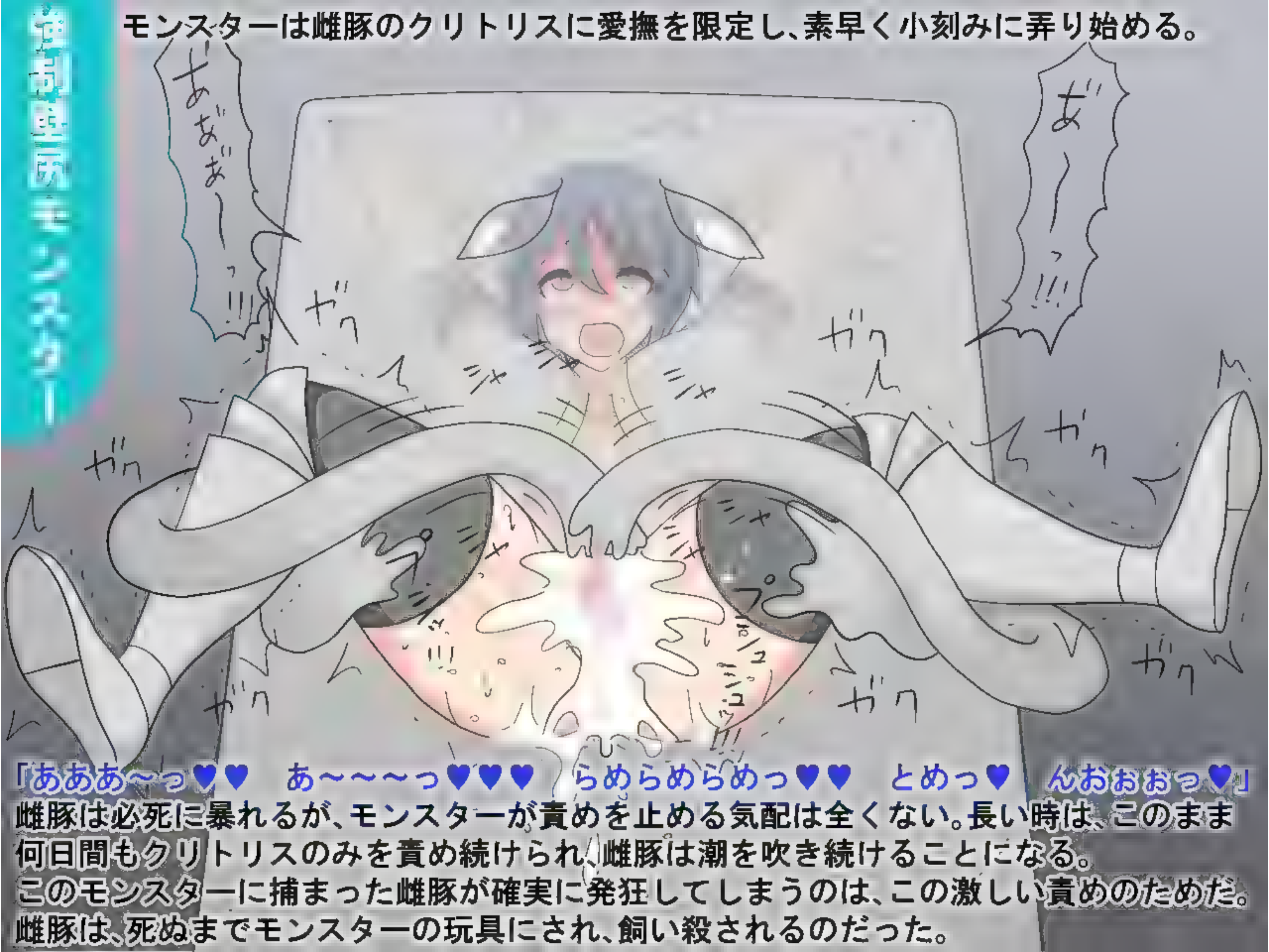
特に、人間より腕力も性欲も強いオーク達に捕まった雌豚は、
逃げ出すこともできずに毎日相手をさせられることとなる。
そうなると、ほとんどの雌豚がすぐに命を失ってしまう。
しかし、中には、オークの子供を孕む雌豚もおり、そういった
適性のある雌豚は、孕み袋としてオークに飼われ、
オークの子を産んで育てるために生かされる。

オーク・ゴブリン
「んほおおおおっ♥　い、イッてますっ♥
おっ・・お腹熱いぃっ♥」
いっ♥　なかっ♥
精液入ってきてる
雌豚たちは、度重なる中出しを
経験するうちに、オークやゴブリンに
逆らわなくなり主人として受け入れる
傾向がある。
そうなると、自発的にセックスを求め、
逃げ出すことは考えられなくなって
しまうのだった。


強制壁尻モンスター
この強制壁尻モンスターというのは、雌豚を体内に取り込み、体内で飼うモンスターだ。しかし、雌豚の愛液、特に潮吹きを好み、強制的に潮を吹かせて弄ぶ。その際は雌豚の下半身だけを体外に出して行うので、この名前が付いた。
うう……
壁尻モンスターは雌豚の下半身を足を大きく開かせ固定する。雌豚の体が上を向いている時もあれば、下を向いている時もあるが、このモンスターにはあまり関係がないらしい。
そうして動きを封じると、モンスターはさらに腕を生やし、雌豚を愛撫し始める。


「あっ♥　ああっ♥　あっ♥　あっ♥」
雌豚は、全く身動きできず、何も見えない状態でま○こやクリトリスを愛撫され、
悶えることしかできない。
あ゛っ!!
あお゛っ!!
カク
グチャ
カク
カク
プシュッ!!
カク
グチュ
カク
クチャ
そして、絶頂に達してしまった時、このモンスターの責めが始めるのだ。

モンスターは雌豚のクリトリスに愛撫を限定し、素早く小刻みに弄り始める。



「あああ～っ♥♥　あ～～～っ♥♥♥　らめらめらめっ♥♥　とめっ♥　んおぉぉっ♥」
雌豚は必死に暴れるが、モンスターが責めを止める気配は全くない。長い時は、このまま何日間もクリトリスのみを責め続けられ、雌豚は潮を吹き続けることになる。
このモンスターに捕まった雌豚が確実に発狂してしまうのは、この激しい責めのためだ。
雌豚は、死ぬまでモンスターの玩具にされ、飼い殺されるのだった。

触手アーマー

外部には知られていない事実ではあるが、
このダンジョン内の宝箱に入っている装備は、すべからく
呪いの装備である。
ただ、無事に
ダンジョンの外に
出られた雌豚が
いないために、
この情報は一切
伝わっていないのだ。

そのために、不幸にも
呪いの防具を装備
してしまう雌豚は
後を絶たない。

呪いの装備には、発情してしまうもの、洗脳されてしまうもの、
石化してしまうもの、身動きができなくなるものなど、幅広い
バリエーションがあるが、ここでは触手アーマーを紹介しよう。
この触手アーマーは、一度身に着けると、自力で脱ぐことは
できない。

触手アーマー
まず、触手アーマーは、その強靭な力で宿主の自由を奪ってしまう。
そして、体内に触手を伸ばし、内側から身体を愛撫する。
アーマーに限らず、小手だけの触手装備であっても、触手装備は他の装備に干渉し、知らぬ間に触手が感染してしまうのだ。
プル
プル
キュッ
プル
プル
雌豚は、この初期の段階であっても、もう触手アーマーに逆らうことはできない。内側に触手が入り込めば、雌豚がたとえ力任せに引きはがそうとしても、絶対に不可能なのだ。
そうして触手アーマーに支配された雌豚は、あとはただ触手が与える快感に悶えるしかない。

触手アーマー

触手アーマーだけでは、
脅威と感じるには
不十分だと思うかも
しれないが、
この危険なダンジョンで
身動きを封じられる
という事は、
他のモンスターたち
を避ける手段を
封じられる
ということだ。

身動きのできない雌豚は恰好の標的にされ、他のモンスターの
餌食になるか、最も運のいい場合でも、触手服に死ぬまで嬲られ、
イキ地獄を味わった上に命を落とすことになるのだった。

番人ミノタウロス

このダンジョン最恐の脅威は、ゴブリンでもオークでもない。冒険の目的そのものの、ミノタウロスである。
このミノタウロスは、
額に宝玉を持ち、
この宝玉の力で、雌豚
を一睨みで爆乳に
変えてしまう。

そもそも、この最下層まで
やってくる雌豚は非常に
能力が高く生命力も強いが、
爆乳化させられてしまうと、
著しく戦闘に支障をきたす。
自由に動けなくなった雌豚は
ミノタウロスに敗北し、
飼われることとなる。

番人ミノタウロス

雌豚は、ミノタウロスの規格外の巨根で毎日のように犯され、雌としての快感を叩き込まれる。

そのため、屈強な
女戦士雌豚であっても、
ミノタウロスに心から
服従させられ、自ら
セックスをねだるようになる。

ミノタウロスは、このような
従順な雌豚をたくさん飼って
おり、尽きることのない
性欲ですべての雌豚を
犯しつくすのだ。

また、ミノタウロスの子供を
孕んだ雌豚により、ミノタウロス
は数を増やし、さらに秘宝を狙う
雌豚が挑戦する、という、
終わりのないループに陥っている。
最終フロアは、大規模な爆乳雌豚ファームと化し、
日夜ミノタウロス達による乱交が行われているのだ。

番人ミノタウロス

「ひあああぁあっ♥
きっ、気持ちいですぅっ♥
ご主人様ぁっ♥
もっと中に出してくださいぃっ♥」
(もうこのおち○ぽがないと
生きていけないのぉっ♥)

屈強で優秀であった雌豚が、
無様に快楽をねだる姿は
壮観であるが、
ダンジョンの外の人々は
それを目にすることは
できない。

そしてまた、そのハーレムを求める
ご主人様により、新たな雌豚が送り込まれ、このダンジョンの
エロトラップの餌食となり、消えていくのだった。

ビクン
あゥゥァ!!
クチュ
ズズズッ
クチュ

ビク
ビク
おおっ!!
おっ!!おおんっ!!
ビク
ビク
トロ
トロ
ビク
ビク

ああんっ!!
ポタ
ポタ
ドロドロ
ポチャ
チャ

あああっ!!
ひゃああっ!!!
クリ
クリ
クリ
クリ
グチャ
グチャ

あぁっ!!

ビク
ビク
グチュ
グチュ
グリ
グリ
プシュッ!!!
ビク

ビクッ
ビク
ビクッ
グリ
グリ
グチュ
グチュ
プシュッ!!!
ビクッ

うう…

フーッ
フーッ
プル
プル
ヒク
ヒク
プル
トロォ…

んおっ!!
おっ!!
おっ!!
おおおっ!!
ビク
プシャアァ—!!
ビクン
ビク
ビクン

へいいっ!!!
ピキ
ピキ
ピキキ

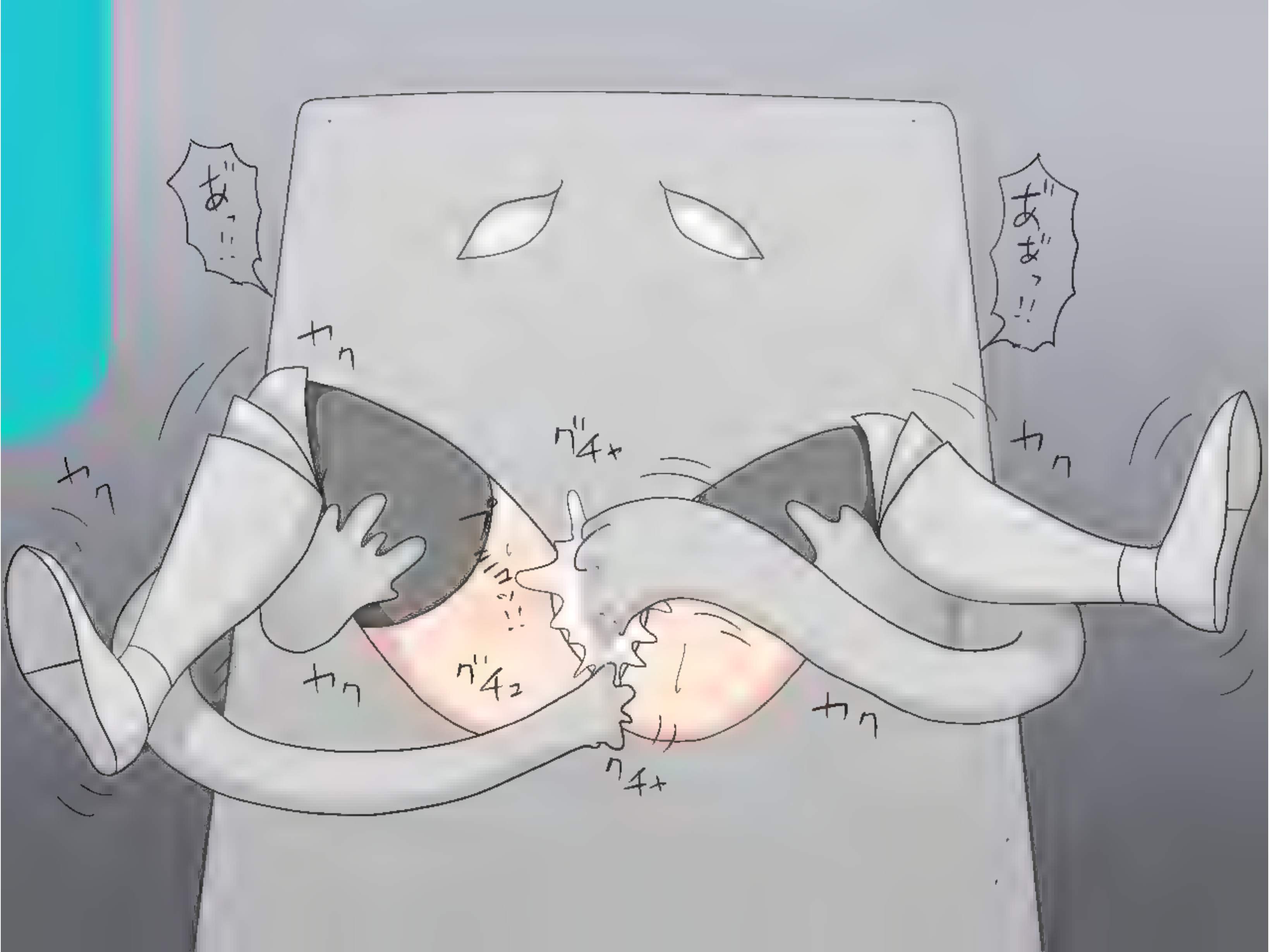
あ…あ

カタ
カタ
カタ
カタ
グチュ
グチュ
レロ
レロ
カタ

んんっ!!
へっ…

んほおおっ
ビクッ
あひぃぃっ!!
ガクンッ
パンッ
モミ
モミ
パンッ
ビクッ
パンッ
プシュッ

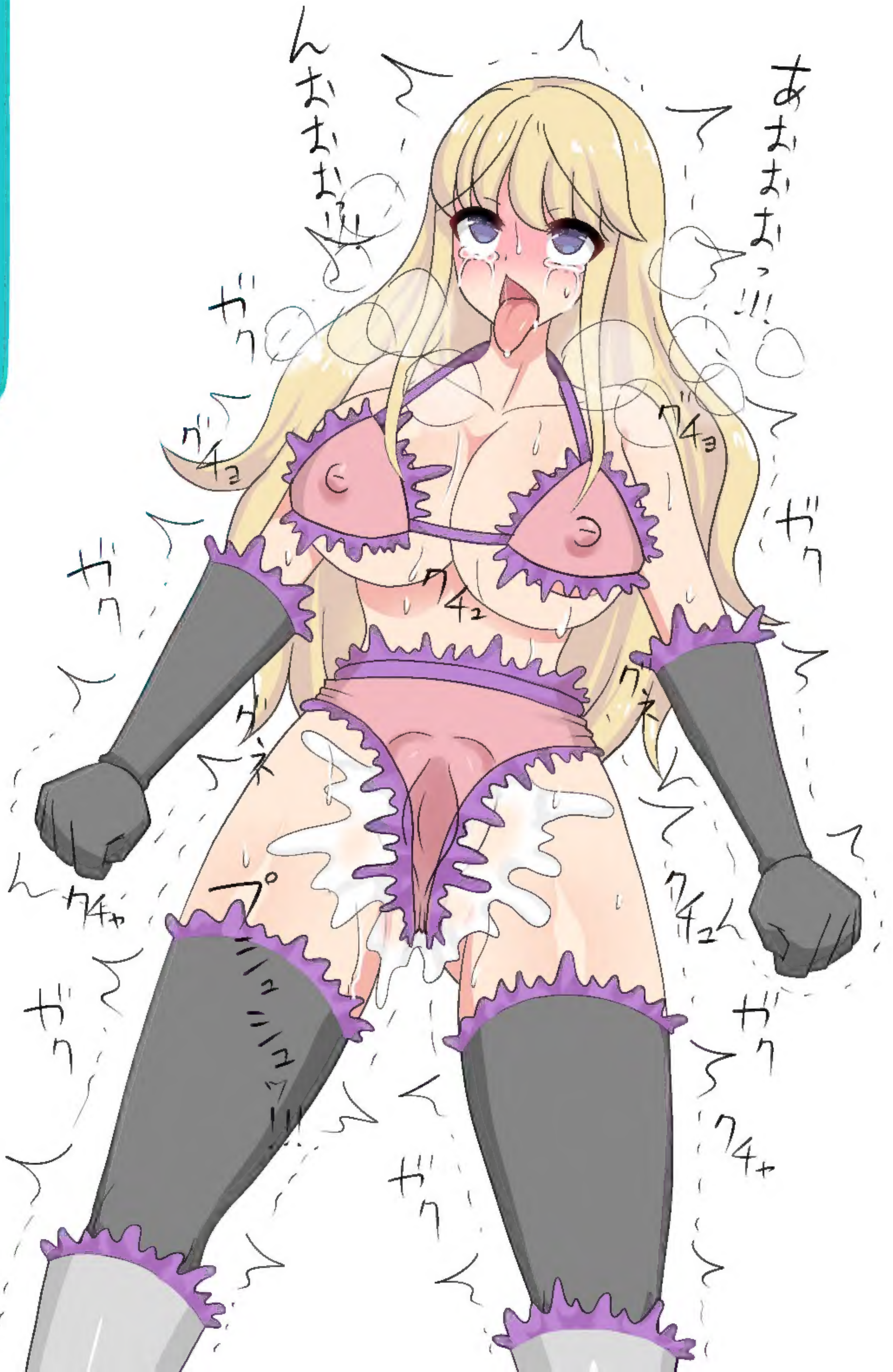
うう…っ

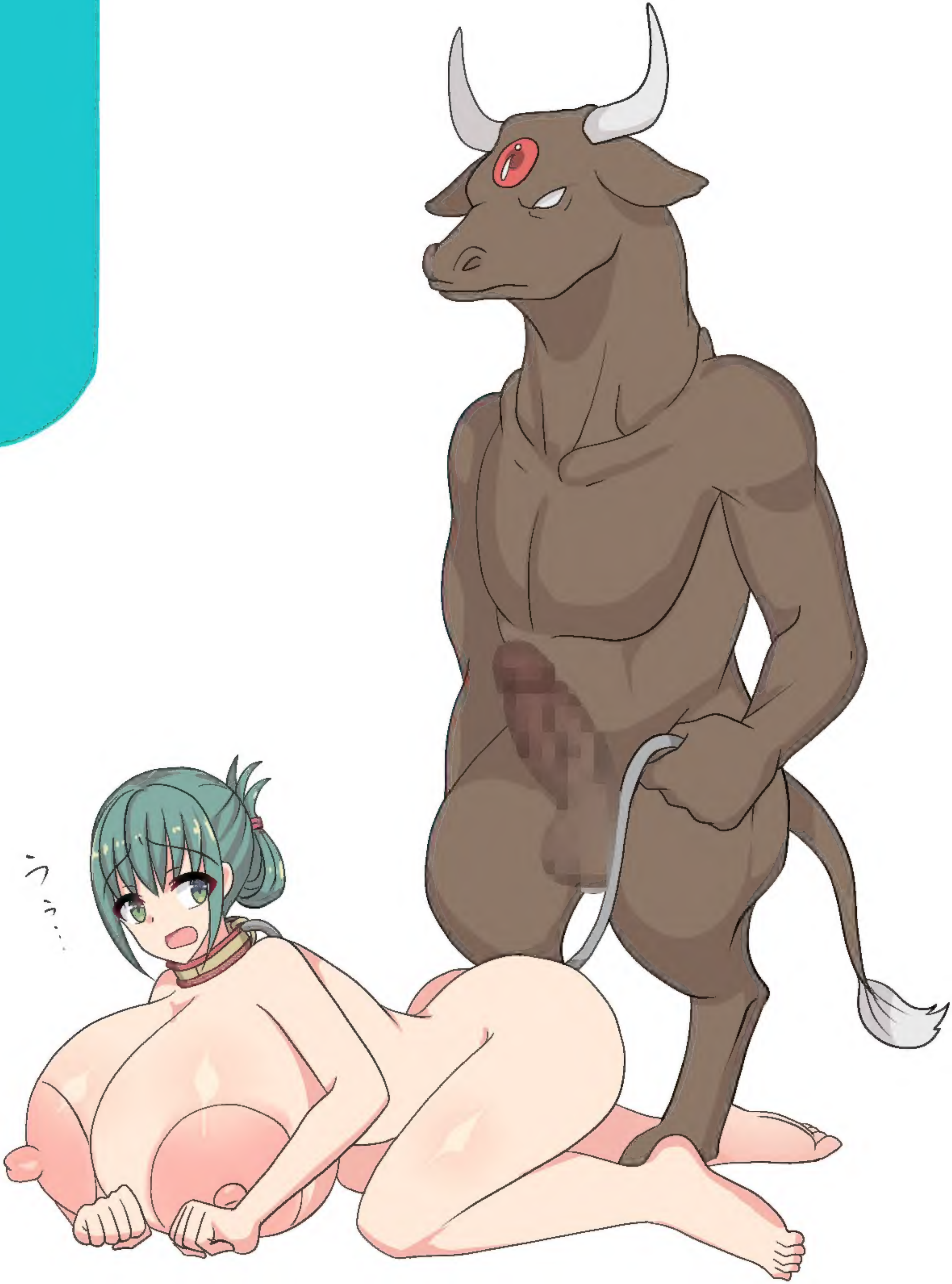

あ゛お゛っ!!
あ゛っ!!
ガク
ガク
グチャ
ガク
ガク
プシュッ!!
グチュ
ガク
クチャ

あ゙お゙お゙ーっ!!!
あ゙ーっ!!!
ガクガク
ガクガク
ガクガク
ガクガク
ガクガク
ミシャ
ミシャ

ビクッ
あうっ!!

プル
ひッ・・・!!
ひううッッ!!
プル
プル
ググググッ
ギュッ
プル
プル
プル


あおおおっ!!!
んおおおっ!!!
ガク
グチョ
グチョ
ガク
ガク
グチュ
グネ
グネ
クチャ
プシュシュシュッ!!!
グチュ
ガク
ガク
クチャ
ガク


うぅ…

はうっ!!
ん
ビクンッ!!
パンッ
ん
パンッ
パンッ

ひあああっ!!!
ガク
ガク
ガク
ガク
ガク
ガク
ガク
ブチュ
ブチュッ!!!